



感動をありがとう

日本代表FW／ジェフユナイテッド市原・千葉

巻誠一郎さん

FIFAワールドカップ・ドイツ大会。日本は、初戦のオーストラリア戦で1対3の逆転負け。2戦目のクロアチア戦は0対0に終わり、3戦目は、前回王者ブラジルに1対4で負け、決勝トーナメント進出はなりません。市出身の巻選手はブラジル戦で初出場。後半に交替するまで、持ち前のあきらめないプレーで攻守ともにチームに貢献しました。



まちがサムライブルーに染まる。
子どもからお年寄りまでテレビにくぎ付け。
サッカーを知る人もそうでない人も熱く、熱く燃えた、
本当に夢のような1カ月間だった。
市民を一つにした巻選手の力は大きい。

小川町内の店舗では巻選手にちなんだ応援商品が次々と登場しました。①『シュート巻』背番号11番が焼印された、外側がシュー生地ロールケーキ。抹茶を使用したスポンジとクリームは、巻選手愛用のシューズとサッカーグラウンドの芝を、中の小豆はフィールドを疾駆する選手を表します。②『メロンパン』チョコで「MAKI」と背番号「11」と書いたメロンパン。③『シュート巻』11種類の具を巻いた巻寿司。上は背番号11番を模した鉄火巻『イレブン巻』。

④市とJA熊本うきから、デコボンとメロンを福島県の日本代表の合宿所に発送したところ、巻選手を通じてチームの皆さんの手にも渡ったとのこと。日本サッカー協会・湯川和之さんから阿曾田市長あてにドイツから送られたお礼の手紙



熱気に揺れる場内
パブリックビューイング
小川町のショッピングセンター敷地内に設けられた会場には、巻選手をはじめとする日本代表を応援しようと、市内外からサポーターが集結。日本代表のユニホームやTシャツを着た若者、家族連れなどで、場内は3日間ともサムライブルー一色に染まりました。サポーターたちは、キックオフ（試合開始）に備え、手拍子やウエーブなどを練習。試合開始と同時にニッポンコールを起し、縦4メートル、横5メートルの大型スクリーンを見つめました。巻選手は3戦目で初出場。前半34分で玉田圭司選手がゴールすると会場は割れんばかりの大喝采。その後も日本代表がゴールを逃したり、相手のシュートを阻止したりするたびに、ため息や歓声が上がりました。
残念ながら決勝トーナメントには進めませんでした。2010年大会でさらに成長した日本代表の姿を見られることと期待しています。